

地区名：上庄地区

実施主体：上庄地区各種団体連絡協議会

1 基本データ

- 地区人口 3,706人（H31.4.1現在）
- 世帯数 1,130世帯
- 行政区数 32行政区
- 面積 約28平方キロメートル
- 地区の沿革

上庄地区は、地勢的には市街地南部に位置し、日本百名山の1つ荒島岳のふもとで、東西約6キロメートル、南北約12キロメートルほどの広さを有している。地域は、一級河川の真名川と清滝川が作り出した扇状地形で、稲作とサトイモの生産が盛んな農村地区となっている。



2 現状と課題

地区の特性として、学区が当地区と同じであり、保育園、小学校、中学校がそれぞれ1園（校）ずつであること、また、以前JAが単独で存続していたことなどから他地区にはない地域の特異性や地域の繋がりがあり、郷土愛も強い。

しかしながら、人口の微減、少子高齢化は同地区も少しずつ進んできており、各集落の活力や地域全体の活力も停滞化してきている。

こうしたことから、平成24年度から、当地区では、地域住民自らが地域を今一度見つめ直し、

地区の伝承や文化を再認識しその価値と魅力を高めようと、地域の活性化や賑わいづくりに繋がるような事業に取り組むこととし、麻那姫伝説継承事業等に取り組んでいる。

平成24年度は麻那姫音頭の復活や麻那姫像の展示庫設置に取り組み、平成25年度は、麻那姫感謝祭の開催をはじめ、伝説の紙芝居作成、また、ヨサコイ麻那姫の作成など、麻那姫伝説に纏わる多様な事業に取り組み、地区住民への周知と継承の意識付けを図った。平成26年度は、この麻那姫伝説継承事業を継続し、地域の賑わいと区民の絆を深め、地域の活性化を図るため、麻那姫感謝祭の継続や麻那姫街道の案内看板設置などに取り組んだ。平成27年度は麻那姫感謝祭やスポーツ等のイベントを更に盛大とするため、キャラクター「まなちゃん」の着ぐるみやスポーツ横断幕を整備した。平成28年度はキャラクター入りのハッピ等を購入・着用し、麻那姫感謝祭の踊りの輪を広げ、また、マスコットをデザインしたのぼりを購入し、各種スポーツイベントを盛り上げた。さらに、麻那姫広場に土を盛り、シバザクラを植栽するなど、地域の賑わいの創出に寄与した。平成29年度は麻那姫音頭の普及を進めるため、上庄踊り振興会を立ち上げた。また、地区内外から人を呼び込み、地域をさらに活性化していくため、上庄地区の史跡である小山城跡地（通称・城山）に遊歩道を設置した。平成30年度は地域づくり講演会を開催し、地域振興の意識向上を図った。

3 事業の内容

麻那姫伝説継承事業は、地区住民には、定着しつつあり、各種広報により伝説の周知などが図れた。

今年度は、麻那姫感謝祭の会場を上庄小学校に変更し、上庄地区の史跡である小山城跡地の遊歩道等の整備は、引き続き実施した。

昨年度同様、各種団体連絡協議会や実行委員会を立ち上げ、以下の事業に取り組んだ。

(1) 麻那姫伝説の児童絵画、作品展

開催日：10月6日（日）

参加者：約500人

会場：上庄小学校



麻那姫伝説の児童絵画

地元の児童に麻那姫伝説を身近に感じてもらえるよう、麻那姫伝説を題材とした絵画の募集を行った。これは、小学校の協力により、伝説を読み聞かせた上で、心に残った一場面を児童に描いてもらった。絵に描かれた場面は様々で、たいへん色彩豊かなものとなり、全ての児童に参加賞を入賞者には賞状と記念品を授与した。



地区住民の作品展

また、公民館でパッチワークなどに取り組んでいるグループに声をかけて、地区に方に見ていただけるよう各種の作品を展示した。

(2) 上庄夏まつりでの麻那姫音頭の普及

開催日：8月3日（土）

参加者：約100人

会場：上庄公民館

平成29年度に麻那姫音頭の普及を進めるため、踊り好きのメンバーを集めて、上庄踊り振興会を立ち上げた。この振興会が上庄公民館において、定期的に稽古し、上庄夏まつり等の実行委員に教え、これらの催事において見本を見せ、踊りの輪を先導して作り、麻那姫音頭を広めた。



上庄踊り振興会による夏まつりの踊り先導

(3) まなちゃん（麻那姫）の知名度の向上

参加日：5月23日（木）

参加者：約150人

会場：上庄保育園

マスコットの着ぐるみ・まなちゃんを、様々なイベントに参加させることで、麻那姫及びその伝説を広く知ってもらった。保育園児による春の恒例のマラソン大会の応援に駆け付けた。



まなちゃんによるマラソン応援

(4) 小山城跡地の遊歩道整備

実施日：7月27日（土）

参加者：11人

場 所：小山城跡地

上庄地区には史跡である小山城跡地（通称・城山）があり、これを地域の資源として生かすため、平成29年度から遊歩道・案内看板を設置している。設置により、地区内外から人を呼び込み、地域をさらに活性化していく。令和元年度は下草刈りや前年の台風で倒れた多数の杉の始末を行った。



小山城跡地の下草刈り

(5) 麻那姫の横断幕等によるスポーツ振興

実施日：10月23日（水）

参加者：約150人

会 場：上庄小学校

子どもたちに愛される麻那姫の意匠入りの横断幕やパンチングバルーンにより、各種スポーツイベントを盛り上げた。上庄地区は、スポーツが盛んな地区であり、上庄地区壮年団体連絡協議会等による結の故郷親善スポーツ大会や、上庄小学校の麻那姫マラソン大会で活用した。



(6) エコツーリズム先進地見学

実施日：11月23日（土）

参加者：35人

行き先：滋賀県

地域づくりの先進地の見学を行った。滋賀県の針江生水の郷かばたなどで、地域のガイドによる説明を聞いた。集落の中をめぐる水路を生かし、生活に根差した、後世に残るまちづくりが、100世帯あまりで行われており、地域活性化の参考となった。



ガイドによる生水の説明

(7) 地域づくり講演会による意識の向上

実施日：12月22日（日）

参加者：28人

会 場：上庄公民館

次世代に向けて地域活力維持のための「地域づくり講演会」を実施。「自治を回復し、まち・むらの課題を、まち・むらの力で解決するためにー協働から総働・小規模多機能自治へー」と題し、I I H O E [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者の川北秀人氏による講演会を行った。



(8) 初午だんごまき継承事業

上庄地区の木本に古くから続く、初午だんごまき。これを今後も継承してゆくため、だんごまきの足場を購入した。しかし、令和元年度は、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。

4 事業の成果

継続して麻那姫伝説継承事業に取り組んだことで、上庄地区に住んでいながら麻那姫伝説を知らなかった人も、事業に参加することにより、事業の意義と伝説を継承していくという意識付けができたと思われる。

また、各種イベントにおいてもキャラクターを用いた着ぐるみなどを活用し、麻那姫伝説の周知による継承ができるようになった。

年間を通じて麻那姫伝説を広め、また、地区の史跡を整備することで、地区の子どもからお年寄りまでが関わりを持ち、触れることができ、地元上庄を愛する気持ちと誇りに思う意識が芽生えたのではないかと思われる。

5 今後の展望

今後は、麻那姫及びその伝説をさらに普及させることや、史跡を整備することで、地域内の活性化はもとより、地域外からも来場してもらえるよう取り組む必要がある。

子どもたちが上庄地区に愛着を持ち、将来はこの地に住み続けたいくなるよう、これからも地区住民が協力し事業を実施していけるよう地域内の各界各層の団体が連携し取り組んでいく。